

名古屋市教育委員会臨時会

平成27年7月27日
午後2時30分
大会議室

議 事

日程1 平成28年度使用教科用図書の採択について

出席者

服 部 はつ代 委員長
梶 田 知 委 員
福 谷 朋 子 委 員
小 栗 成 男 委 員
野 田 敦 敬 委 員
下 田 一 幸 教育長

教育次長始め、事務局職員24名 ※傍聴者40名（傍聴申込49名）

（服部委員長）

それでは、ただ今から教育委員会臨時会を開催いたします。

まず、傍聴の方も含め、ここにおられる皆さまにお願いですが、本日の議事であります「平成28年度使用教科用図書の採択について」に関しましては、県の指導により、採択結果は8月31日まで非公開となっております。また、会議録、資料等につきましても同様の取り扱いとなっておりますので、その旨ご理解の上、本日知りえた内容につきましては、ご配慮くださいますようお願いいたします。

では、日程第1「平成28年度使用教科用図書の採択について」を23日の定例会に引き続いて議題といたします。本日は、中学校用のうち、数学、理科、音楽一般、音楽器楽合奏、技術・家庭の技術分野、家庭分野、保健体育の順で審議してまいりますのでお願いいたします。

それでは、数学について、事務局の説明をお願いいたします。

（河合指導主事）

数学科の教科書は、7者から発行されており、その全てにつきまして、全中学校と調査専門委員会で調査研究をいたしました。

最初に、全中学校の「教科用図書調査研究協議会」による研究結果について報告いたします。お手元の桃色のファイル、数学のページをご覧ください。観点別に見ると、すべての観点について「啓林館」に特筆すべき点があるとしています。

続きまして、調査専門委員会が、各発行者の観点別の特徴、さらにその内の特筆すべきものを調査研究した結果について報告いたします。緑色のファイル、数学のページをご覧ください。

観点1「学習指導要領との関連」については、「東京書籍」と「啓林館」に特筆すべき点があるとしています。「東京書籍」2年生、観点1の23、24ページをご覧ください。「学び合い」というページを設け、数量や図形の性質を見いだす活動や、自分の考えを説明し伝える活動を取り入れ、数学的な思考力、表現力を伸ばすことができるよう工夫されています。「啓林館」2年生、観点1の80、81ページをご覧ください。「みんなで話し合ってみよう」という気付いたことや考えたことを友達と話し合う活動や、「自分のことばで伝えよう」という考え方や理由を説明する活動を随所に設け、数学的な思考力や表現力を高めることができるよう工夫されています。

観点2「名古屋市教育振興基本計画との関連」については、「学校図書」と「啓林館」に特筆すべき点があるとしています。「学校図書」2年生、観点2をご覧ください。キャラクターの吹き出しによって学習の中で生じる問いを随所に示し、学習の動機付けをするとともに、その疑問に対応するページを示し、自ら学び続ける姿勢を育成するよう工夫されています。「啓林館」2年生別冊「マスマナビ・ブック」観点2をご覧ください。「学びをいかそう」のように、学習したことを日常生活に活用する例を示すことで、数学の有用性を感じさせ、数学を学ぶ意欲を喚起し、生涯を通して学び続ける姿勢を育成することができるよう工夫されています。

観点3(1)「内容の選択」については、「教育出版」と「日本文教出版」に特筆すべき点があるとしています。「教育出版」2年生の観点3(1)をご覧ください。基本の定着を図る「基本のたしかめ」と学習したことを深める「チャレンジコーナー」を設け、生徒の実態に応じて学習を進めることができるよう工夫されています。「日本文教出版」2年生の観点3(1)の36、37ページをご覧ください。章の導入において、身近な話題を取り上げ、疑問や気付きを吹き出しで示すことで、学習の必然性が感じられ、意欲が高まるよう工夫されています。

観点3(2)「内容の程度」につきましては、「東京書籍」「啓林館」「数研出版」に特筆すべき点があるとしています。特に「東京書籍」2年生、観点3(2)をご覧ください。「例」と「問」の間に、「たしかめ」という「例」と同じ型で数値のみを変えた問題を設けたり、右下にあるように、予想される間違い例を示したりすることで、学習内容の定着を図る工夫がなされています。

観点3(3)「内容の構成」については、「大日本図書」「日本文教出版」に特筆すべき点があるとしています。特に「大日本図書」2年生、観点3(3)の66から83ページをご覧ください。

さい。1単位時間の学習内容を全て見開きにする構成になっており、学習の過程が捉えやすく、学習内容を定着させたり、学習を深めたりすることができるよう工夫されています。

観点4「表記・表現及び使用上の便宜等」については、「東京書籍」「啓林館」に特筆すべき点があるとしています。特に「啓林館」2年生、観点4の108、109ページをご覧ください。イラストや吹き出しで学習場面を示したり、新しく習う用語は薄い緑色、重要な性質は薄い青色というように背面を色刷りにしたりするなど視覚的にとらえやすくなるよう配慮されています。

観点5「印刷・造本等」については、おおむね7者ともカラーユニバーサルデザインや、ユニバーサルデザインフォントに配慮されています。特に「数研出版」2年生、観点5をご覧ください。式と図の対応する部分を同じ色で示すなど、配色を工夫することによって、視覚的にも理解が容易なように配慮されています。

次に、数学科の特に調査を要する事項について、特筆すべき特徴を報告させていただきます。

まず、「数学的活動の充実」については、「東京書籍」2年生、事項1をご覧ください。

「Q：考えてみよう「Aさんの考えは正しいといえるでしょうか。」」のように、全ての節の導入で数学的活動を促し、新たな学習への意欲を高め、その活動が次の学習へつながるように工夫されています。

「学年間や学校段階間でのスパイラルの扱い」につきましては、「数研出版」2年生、事項2の4から10ページをご覧ください。巻頭に既習事項をまとめて取り上げています。事項2の31ページをご覧ください。本文で既習事項が必要となる場面では該当ページを示して、振り返りができるよう配慮されています。

「数学的な思考力・表現力を身に付ける学習活動の充実」については、「学校図書」2年生、事項3をご覧ください。例題の解答をノート形式にしているものがあり、模範的な解答や書き方の注意点を示しており、生徒に数学的な表現力を身に付けられるよう工夫されています。「啓林館」2年生、事項3の182から195ページをご覧ください。巻末には「ひろがる数学」があります。生徒にじっくり考えることを通して、数学的な思考力、表現力を身に付けさせるために工夫された問題が設定されています。

「数学の有用性を実感する活動の充実」については、「大日本図書」2年生、事項4をご覧ください。全ての単元に「利用」の節が設定されており、学んだことを利用することによって、数学の有用性を実感できるよう工夫されています。「啓林館」2年生、事項4をご覧ください。生活との関連を重視し、数学を活用して身の回りの問題を解決する課題を適切に位置付け、数学を学ぶ意義と有用性を実感できるよう配慮されています。

最後に、教科書センターでの教科書展示会における市民の声について報告いたします。黄色のファイル、数学のページをご覧ください。数学については、「小学校算数の学習内容を確認し、学びをつなげている点」「数学を活用して身の回りの問題を解決する内容が充実している点」等を評価する意見が多数寄せられておりました。

以上、数学について説明させていただきました。ご検討ください。

(服部委員長)

ありがとうございました。それでは審議に入ります。ご意見、ご質問等ありましたらお願いします。

(福谷委員)

意見になりますが、先ほどご案内いただきました「市民の声」でも多く記載されておりますように、「啓林館」の別冊というのが、非常に面白い視点で、例えば、デザイナーの方だとかスポーツ関係というような形で、現実の生活の中でどう数学が関係しているかというような視点で作られていて、大変子どもの興味を刺激するのではないかなと思いました。

(野田委員)

関連して、別冊があるのは「啓林館」だけなんですけれども、確か昨年度、小学校の採択の折にも「啓林館」はどこかの教科で別冊があったかと思いますが、小学校の場合は別冊があると無くなっちゃうみたいなこともございましたけれども、中学校では大丈夫なのかなあと。中に入れてしまっても私は構わないと思うんですけれども、あえて取り出したというところがですね、何かポイントがあれば、調査専門委員会の議論があれば聞きたいと思いますが、どうでしょうか。

(河合指導主事)

調査専門委員会の方でもその辺りは話題になりまして、「啓林館」にのみ別冊の「マスタビブック」というのが付けられております。数学を苦手とする生徒の中には、非常に手間がかかるということで、練習問題を取り組んだ後に答え合わせとか、そういったものをいい加減にしてしまうとか、そういう子もいたりするわけなんですけど、練習問題等に取り組んだ後に、解答が別冊になっていることで、教科書の問題やそのポイントとなる学習内容のページ、それと自分のノートの解答、それから別冊の解答、この3つを一度に突き合わせて見比べることができるようになるということで、学習しやすくなるというふうに考えられました。こういう話が出ました。

(服部委員長)

生徒自身が自分で検討するということが可能になるということで、とても利点があるということですね。他にはいかがでしょうか。

(梶田委員)

ちょっと質問ですが、「啓林館」が専門委員の方々の圧倒的な支持を得ているような気がするんですが、その一番の理由というのは、これだけ大差の支持を得ているというのは、どこにあるんでしょうか。

(河合指導主事)

先ほどの調査専門委員会報告書の方にもありますように、全般的な見やすさですとか、使いやすさ、それから、数学的活動や言語活動の充実、つまづきへの対応、発展的な問題、数学の有用性を実感させる題材の取り扱い等、全体的にバランスの良い教科書というふうに判断されております。また、特に、先ほども話題となりました別冊の方が、かなり中身も充実していて、効果的に編集されているのではないかという声が多くありました。

(小栗委員)

観点2の名古屋市教育振興基本計画のところの、今回基本計画を作った時には、グローバル化の視野でということ、これは全教科かかってくると思います。その中で、先般も視察に行かせていただいた海外の数学の大会なんかを見ていた時に、今後この中学の教科書が高校につながっていくという視点で考えた場合に、振興基本計画は、グローバルな考え方で当然数学も考えていこうという視点のなかでは、どの教科書がこの中では優れていると思われるか、ご意見をいただきたいと思います。

(河合指導主事)

調査専門委員会のなかでは、特にグローバルという部分もそうなんですけれども、学びの連続性とか、そういう部分ですね、この学びをさらにつなげていくという部分で話題になったことがありました。多くの教科書では、そういう意味で、単元の学習に入る前とかに、学習の動機づけをしっかりと行って、数学そのものやその単元を学習する必要性を持たせたり、その単元の学習内容に関連する既習内容を取り扱ったりしてやっていました。特に「学校図書」につきましては、3年生の教科書、102ページをご覧いただきたいんですが、ここに、吹き出しがありまして、例えば「2乗に比例する関数はどんなグラフになるのかな」とあるように、学習の中で生じる生徒の問いを重視した構成ということになっています。子どもの問いを重視し、考えさせ、伸ばしていき、さらに学んでいきたい、そういうものを育てる構成になっております。また、「啓林館」3年生を見ていただきたいんですが、例えば164ページ、「船の位置はどこ」というような課題があると思いますが、常に数学を日常生活の様々な場面に利用する活動の良さ、それを感じながら主体的に学習が進められるように構成されています。従いまして、このような活動をさせていくことによって、生徒が高校に入っても数学を自ら学んでいこうというふうな形で構成をしているということです。

(服部委員長)

ありがとうございます。今の説明の中で、ある意味で、生活にも関係付けながら学べるような視点が出ているというようなことだったと思います。

(野田委員)

意見ですけれども、調査専門委員会からも、特筆すべき点が「啓林館」について非常に多く出ております。それから、全市の中学校の数学専門の先生方が見られた結果も、圧倒的に「啓林館」が特徴があるというふうに答えていますし、全県的に見ましても、「啓林館」を使っている地区が多くあるということもありますし、学力調査の結果も、数学の方は国語に比べていいですので、あえて変える必要はないかなと。「啓林館」で継続という意見を私は持っております。

(服部委員長)

ありがとうございます。議論も出尽くしたかなというふうに思いますし、動機づけや一般的な編集もいいということで、数学の教科用図書につきましては、「啓林館」を採択してよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(服部委員長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。

続いて、理科についてお願いいたします。

(鷲尾指導主事)

中学校において、理科の授業は、1年生で年間105単位時間、2、3年生では年間140単位時間行っております。今回、理科の教科書につきましては、5者から発行されており、その全てについて、全中学校と調査専門委員会で研究調査いたしました。

まずは、桃色のファイル、理科のページをご覧ください。全中学校の「教科用図書調査研究協議会」による研究結果について報告いたします。

観点4「指導上の便宜等」については、「東京書籍」と「大日本図書」の2者に、ほぼ同様に特筆すべき点があるとしています。また、それ以外の6つの観点においては、いずれも「大日本図書」に特筆すべき点があるとしています。

続いて、緑色のファイル 理科のページをご覧ください。調査専門委員会が各発行者の観点別の特徴、さらにその内の特筆すべきものを調査研究した結果について報告をいたします。

観点1「学習指導要領との関連」については、「東京書籍」と「大日本図書」に特筆すべき点があるとしています。「東京書籍」1年生の観点1のページをご覧ください。①から⑧まで問題解決の手順が明確に分かり易く記載されており、科学的に探究する基礎を養うことができるように編集をされています。続いて「大日本図書」2年生の観点1をご覧ください。左ページ下の方に生徒の会話が吹き出しで示されています。こうした場面が随所に設定されており、観察、実験の予想や着眼点等を分かりやすく提示しています。

観点2「『名古屋市教育振興基本計画』との関連」においては、「大日本図書」と「学校図書」に特筆すべき点があるとしています。「大日本図書」2年生の観点2の113ページの方をご覧ください。下のコラム「プロフェッショナル」というところでは、学習内容と職業との関連を紹介しています。また、同じ観点2、51ページの方をご覧ください。下の方に「くらしの中の理科」がありますが、このように、学習内容と日常生活との関連を豊富に取り上げ、科学に対する夢や希望をもつことができるように工夫をされています。続きまして、「学校図書」1年生の観点2をご覧ください。科学を仕事に活かして働いている人たちを各単元末に取り上げ、学習内容と職業との関連を分かりやすく紹介することで、科学を学ぶ大切さを実感し、学習意欲を高めることができるように工夫をされています。

観点3(1)「内容の選択」においては、「大日本図書」と「教育出版」に特筆すべき点があるとしています。特に「教育出版」1年生の教科書をご覧ください。観点3の(1)、8ページ、9ページをご覧ください。ここでは、単元の導入で日常生活を想起させる写真を提示しています。また、同じ観点3の(1)、70ページをご覧ください。そこでは、左上になりますが、長縄跳びを跳んでいる写真、1枚めくっていただいた72ページの上、女の子が鏡に写った写真を使っていますが、それぞれ学習の導入で、身近な現象を思い起こす写真が取り上げられています。このように、多くの場面で日常生活との関係を意識しやすいように配慮がなされています。

観点3(2)「内容の程度」においては、「東京書籍」と「大日本図書」に特筆すべき点があるとしています。「東京書籍」「大日本図書」ともに、章末や単元末で学習内容を整理したり、学習内容が身に付いたのかを確認できる問題を掲載したりし、補足的な内容が豊富に設定されています。また、「東京書籍」2年生の観点3(2)の12ページと31ページをご覧ください。12ページ左の真ん中あたりになりますが、黒い丸に白抜きの文字で「物質を細かくしていくと、どうなるのだろう」と書かれています。31ページの方にも黒い丸で白抜きの文字で同じ事が書かれています。また、「before & after」と書いてありますけれども、それぞれの章の最初と最後に同じことを問いかけ、生徒自身が学力の定着を確認、自分の成長を感じることができるようにしています。

観点3(3)「内容の構成」においては、「大日本図書」と「教育出版」に特筆すべき点があるとしています。特に「大日本図書」は、観察、実験のしやすい時期、1年から3年で理科室の使用が重ならないことを加味した配列になっております。また、発展的な内容を豊富に取り上げ、生徒が個々の実態に合わせた学習ができるように工夫がされています。

観点4「表記・表現及び使用上の便宜等」においては、「東京書籍」に特筆すべき点があるとしています。「東京書籍」は、写真やイラストが効果的に配置され、学習意欲が高まるよう工夫されています。また、目立つマークを用いて安全面にも配慮がされています。

観点5「印刷・造本等」においては、「大日本図書」に特筆すべき点があるとしています。「大日本図書」では、特に見出しと本文の書体がバランスよく配置されることで、メリハリがあって、大変読みやすくなっています。

続いて、特に調査を要する事項について、特筆すべき特徴を報告させていただきます。

事項1「問題を見だし観察・実験を計画する学習活動の充実」については、「東京書籍」2年生の事項1をご覧ください。215ページの方に「レッツ トライ！」というものがあります。また、233ページの「調べよう」が設定されています。このように体験をもとに課題を把握できるようにしています。

事項2「観察・実験の結果を分析し解釈する学習活動の充実」については、「大日本図書」1年生の事項2をご覧ください。「観察・実験」の欄の下の方に「結果の整理」「結果から考えてみよう」というものが示されています。この二つを明確にして結果を分析し、解釈できるようにしてあります。そして、次の112ページの方では、実験の結果を表にまとめ、さらに「実験の結果」と「結果から分かること」を明確に区別して示し、観察・実験の結果を分析し、解釈する学習活動が確実に行われるように構成されています。

事項3「科学的な概念を使用して考えたり説明したりするなどの学習活動の充実」については、「東京書籍」3年生、事項3をご覧ください。左のページ下にあります「学びを活かして考えよう」のように、課題を提示し、既習内容を活用して考えたり、説明したりする学習活動を行うことができるようにしています。「学校図書」2年生、事項3をご覧ください。ここには「話し合ってみよう」がありますが、次のページもご覧ください。そこの下の方には、「問い」と「話し合ってみよう」があります。こうしたものが随所に設定され、考えたり、説明したりする学習活動の充実が図られています。

事項4「科学的な体験、自然体験の充実」については、どの教科書会社も、体験活動を重視するとともに、校外施設の活用を促しています。例えば「啓林館」2年生、事項4の246ページから249ページをご覧ください。ここでは「きみも科学者」ということで、ものづくりや科学的な体験ができるように促しています。同じく事項4の250ページからのところでは、「サイエンストラベラー」で地域の自然を紹介して関心を高め、自然体験を促しています。

最後に、教科書センターでの教科書展示会における市民の声について報告をいたします。黄色のファイル 理科のページをご覧ください。

「小学校で分からなかったことを、もう一度教えてもらえると子どもはうれしいと思います」「分かりやすくシンプルなものが子どもたちにとっては一番いいのではないかなと思います」「教科教育の中で防災・減災を意識付けることは大事だと思います」「理科の内容に関連付けた社会とのかかわりを紹介した写真が多く載っていて感心しました」「誰

にでも見やすい教科書を選んでください」などの意見が寄せられておりました。

以上、理科について説明をさせていただきました。ご検討をよろしく願いいたします。

(服部委員長)

ありがとうございます。それでは審議に入りたいと思います。ご意見、ご質問等お願いいたします。

(下田教育長)

「大日本図書」が理科室の利用まで考えて配置されているという、非常によく配慮されているなと思いました。

(服部委員長)

学校の限られたスペースで、理科室のことを考慮していることは非常に良いということですね。他にはいかがでしょうか。

(野田委員)

先日、美術の教科書で、名古屋市美術館の展示の写真が載っていて、子どもたちの学習意欲を高めるのに大変いいだろうということで、採択の重要なポイントになったんですけども、名古屋市には世界に誇る科学館がありますが、どこかの発行者で使っているところがありましたら、なければいいんですけども、いかがでしょうか。

(鷺尾指導主事)

調査専門委員会の方からは、特にその件についての報告は来ておりません。私が見た範囲では、「大日本図書」それから「啓林館」で科学館が出ておったと思います。

(服部委員長)

見ていただいて、2者に載っていたということでございます。

市民意見で、小学校で分からなかったところを、もう一度教えてもらえるのはありがたいなと書いてあるんですが、そういうところを配慮しているところはどこなのでしょう。

(鷺尾指導主事)

全ての教科書が「思い出してみよう」「振り返ってみよう」ということで、小学校のものを載せてきております。例えば「大日本図書」の2年生のものをご覧ください。例えば8ページ、9ページをご覧ください。「化学変化と原子・分子」というところがありますが、3章の上、4章の上のところに、小学校6年生、小学校5年生の内容が写真とともに紹介をされています。このように、中学校で学習することが、小学校で何をやってきたか、それに

基づいて学習していくんだよということが、このように示されております。また「学校図書」の1年生の5ページをご覧ください。ここでは、これまでに学んできたことをチェックしようということで、「単元の学習の前に」というものがありますが、それぞれ1章、2章、3章、4章と勉強することを、小学校でどのように学んできたか、ここではチェックをしながら、自分がそのことを理解しているかというようなことも振り返られるようになっていきます。特筆すべきところとしてはここかなと思います。各発行者ともそういったところには非常に配慮されているというふうに考えております。

(服部委員長)

ありがとうございます。他にはどうでしょうか。

(梶田委員)

「啓林館」なんですが、先ほど別冊が付いて、今回もこちらの会社は別冊が付いて、私からすると、太い本をもらうより薄っぺらい方が勉強のやる気を起こすなと思うんですが、そのへんは専門委員会ではどうだったでしょうか。

(鷺尾指導主事)

理科の方の「啓林館」は「マイノート」という別冊になっておりまして、「サイエンスアプローチ」という、授業の中で使う部分と、それから「ステップアップ」、もちろん授業でも使うんですが、問題に当たる部分ですが、こうした二部構成になっております。調査専門委員会の方で話題になったこととしては、「サイエンスアプローチ」の授業で使う部分、名古屋の先生は自作のプリントなどを作りまして、子どもに合わせて授業を進めているんですけども、そういう意味で助かる先生もいるかなということもありますが、それぞれ先生方は非常に考えて授業をしているので、これに縛られて、かえって授業がやりにくくなってしまふ先生も多いのではないかなという意見が、調査専門委員会の方では出ておりました。また、問題の方は、先ほど野田委員の方からありました数学のところと同じで、各単元末に載っていた方が良いのか、別冊になっていた方が良いのかは、先生によって意見が分かれるところかなというふうにありました。一部、各学校問題集を買ったりしているところもあるんですが、これがあれば買わなくて済むのではないかといった市民の声もありましたけれども、それぞれ教科書の単元の後ろに載っているものとこれと比べて、さほど量に差はないので、ちょっと問題集の代わりにはならないかなという意見も出ておりました。

(服部委員長)

ありがとうございます。そうすると、問題集は、生徒はまた別に購入するということになるわけですか。

(鷺尾指導主事)

学校によりますが、自作で先生が問題を作られてプリントにしてそれをやるという先生も見えますし、今、問題集を購入している学校については、たぶんこれになっても問題集として別に買う必要があるのではないかなという意見が、調査専門委員から出ておりました。

(下田教育長)

各学校の調査も圧倒的に「大日本図書」ですし、観点の報告書の方もまんべんなく良い点があるということですので、私は「大日本図書」を継続すればいいのではないかなと考えます。

(服部委員長)

学校の現場の意見も、それから調査専門委員会の意見も「大日本図書」が圧倒的なご支持を受けるということですので、「大日本図書」というご意見がありましたが、それでは、理科につきましては、「大日本図書」を採択するということがよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(服部委員長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。
続いて、音楽一般についてお願いいたします。

(森勢指導主事)

音楽科の学習は、1年生が年間45単位時間、2年生と3年生が35単位時間となっております。教科書は「教育出版」「教育芸術社」の2者から発行されており、全中学校と調査専門委員会で調査研究いたしました。

まずは、桃色のファイル、音楽一般のページをご覧ください。全中学校の「教科用図書調査研究協議会」による研究結果について報告いたします。

観点「学習指導要領との関連」「内容の選択」「内容の程度」「内容の構成」「学習の仕方への支援」については、「教育芸術社」に特筆すべき点があるとしています。また、観点「指導上の便宜等」「印刷・造本等」については、「教育出版」に特筆すべき点があるとしています。

続きまして、緑色のファイル、音楽一般のページをご覧ください。調査専門委員会

が、各発行者の観点別の特徴、さらにその内特筆すべき点について調査研究した結果をご報告いたします。

観点3(1)「内容の選択」については、両者とも、各学年の目標に沿って適切に選択され、特に日本の伝統音楽を豊富に取り上げています。「教育出版」の2・3上の教科書の観点3(1)をご覧ください。日本と世界の音楽を対比させながら、我が国の音楽を学ぶ工夫がされています。また「教育芸術社」の1年の教科書、観点3(1)から49ページまでを順にご覧ください。初めに「日本の民謡」の鑑賞、「ソーラン節」を歌う活動、さらに「日本の音階を使った旋律づくり」の活動へと学習が展開されています。

続きまして、観点3(2)「内容の程度」について申し上げます。「教育出版」の2・3下の観点3(2)、巻末の見開きのページをご覧ください。そこに音楽記号や音楽の要素がまとめて記載され、確認しながら理解を深めることができます。また、観点3(2)、16ページをご覧ください。指揮をする活動を通して、楽曲の特徴をとらえる活動が掲載されています。次に「教育芸術社」2・3上をご覧ください。観点3(2)の付せんが3つございますが、6ページには「BINGO GAME」、次に11ページ、そこには「My Voice」、これらにより、音楽の基礎的な能力を身に付けられるようになっております。また17ページをご覧ください。「ここが分かればGrade Up」では、学習のねらいが具体化され、補充的な学習が可能となっています。

次に観点4「表記・表現及び使用上の便宜等」については、「教育出版」2・3上の観点4から15ページまでをご覧ください。「浜辺の歌」が載っております。そのページには朝の海が、次のページには夕べの海の大きな写真を掲載し、情景を思い浮かべ、イメージをふくらませて歌うことができるようになっています。

次に観点5「印刷・造本等」については、「教育出版」の1年、観点5をご覧ください。先ほどもほかのところで見ていただきましたように、折り込みページがございます。これを効果的に使われております。また、あじろ綴じという綴じ方により、堅牢な造本となっております。一方、「教育芸術社」につきましては、ちょっと造りが違っていて、糸綴じの造本となっております、開いていただきますと、開きやすく使用しやすいと言えます。

では、特に調査を要する事項に入ります。

事項1「共通事項の取り扱い」については、「教育出版」の1年、事項1の左上をご覧ください。各教材にこういうような記載があるんですけども、「共通事項」が示され、学習のねらいが明確になっています。次に「教育芸術社」の1年の事項1「音楽学習マップ」をご覧ください。各教材のページには、「教育出版」と同様に、「共通事項」が示されていますが、このページに「共通事項」がまとめて掲載されており、それぞれの活動を関連付けて学習できるようになっています。

続きまして、事項3「創作の指導内容の扱い」についてですが、「教育出版」2・3上の事項3をご覧ください。箏による旋律の繰り返しや、重ね方を工夫した創作の活動

が掲載されています。次に「教育芸術社」の1年、事項3をご覧ください。下の方を見ますと、音の高低、強弱、音色にポイントを絞り、イメージに合った音を音楽へと構成する活動が示されています。

続きまして、事項4「鑑賞領域における我が国の音楽の扱い」については、「教育出版」2・3上の事項4をご覧ください。左のページは「越天楽」、右のページには「歌舞伎」をそれぞれ体験する活動が取り入れられています。また「教育芸術社」の2・3上の事項4から44ページまでをご覧ください。ここでは歌舞伎「勸進帳」を鑑賞した後に、長唄を歌う活動が取り入れられています。

最後に、教科書センターでの教科書展示会における市民の声について報告いたします。黄色のファイル、音楽一般のページをご覧ください。

「日本音楽との出会いの場として教科書の役割は大きく、写真や説明が分かりやすく、感心しました。」という意見のほか、「新しい曲が入っていて、どちらの教科書も今歌いたい曲があり、古い感じがしなくていい、と感じます。」といった意見が寄せられました。

以上、音楽一般について報告させていただきました。ご検討ください。

(服部委員長)

ありがとうございました。それでは審議に入りたいと思います。ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

(福谷委員)

質問ですが、各学校における観点別傾向に関するまとめを拝見しますと、「指導上の便宜等」というところが、「教育出版」がかなり多数で、支持を得ていますが、その理由を教えてくださいませんか。

(森勢指導主事)

これにつきましては、専門委員会の報告書にもありますように、鮮明な写真、先ほど見ていただきました「浜辺の歌」などの鮮明な写真で、より表現につながるイメージを喚起できるという点、それから、これも見ていただきましたが、見開きのページのところで評価が高いかなと思っております。

(服部委員長)

ありがとうございました。鮮明な写真が入っていて、イメージが喚起しやすいということでした。他にはどうでしょうか。

(小栗委員)

これは教科書選定と、ひょっとすると一部ずれている話なのか、もしくは本質的な話なのかと判断の上でお答えいただければいいんですが、中学生にこの時間を使いながら、いろんな事がありますよね、例えば日本の文化、海外のオペラとか、楽器なんかいろいろあると思うんですが、実際にこの教科書には書いてあるんですが、学生たちというのは、これだけ多くのことをどれくらい消化できるものなのか、もしくは、ここに書いてあることというのは、全て時間を使って生徒たちに教えていっているのか、というところをちょっとお聞きしたいと思いますけれども。

(森勢指導主事)

ご指摘のとおり、大変豊富な教育内容となっておりますけれども、全て学習指導要領で示されていることとなります。ただ、もちろん先ほど申し上げた時間の中でということですので、各校工夫をして、多くのことが網羅されるように、学習の展開を工夫していると思われま。その中で、先ほど言いました、表現と鑑賞の関連など、そういった点からも工夫をされていると考えられます。

(小栗委員)

そうしますと、確認でありますけれども、ここに出ているページは、全て限られた時間の中で生徒には教えていっておられるという解釈でよろしいでしょうか。

(森勢指導主事)

例えばですが、「教育出版」の最後の方に「歌のアルバム」というところがあります。「教育芸術社」についても、最後のところに「心通う合唱」ということで、たくさんの教材が載せられております。ですので、これは全てを必ず扱うということではなく、その中で取捨選択しながら、広角的に学習を進めると、そういう立場でございます。

(下田教育長)

扱いやすさということからいくと、「教育出版」はかなり折りこみページがあって、一気に情報量がありますよね。それから、「教育芸術社」の方は折りこみページを入れてないので、ただ、今、扱わせてもらおうと、何となく「教育芸術社」の方が開きやすいんですけど、情報量からいくと、やっぱり折りこみがあったほうがいいのかどうかというのが少し、破れないかなというのもあってですね、現場ではどういう感じかなと。というのは、ほとんど接近してますよね、音楽は。非常に難しいなあと思うんですけれども。

(森勢指導主事)

一言で言いますと、確かに「教育出版」の方は資料が豊富という点がございます。ただその資料が豊富な事が全てよいかどうかという点については、調査専門委員会の方で話題

に出まして、逆を返せば、「教育芸術社」はシンプルな作りになっているということで、どちらを取るかということになりますけれども、その意味では、調査専門委員会としては、シンプルな「教育芸術社」が、デザインもどちらかといえばシンプルで、白を基調としたものであるとか、そのような点で「印刷・造本等」のところでもありますように、使用しやすいという意見が調査専門委員会の方では出ておりました。

(野田委員)

かなり接近しているので微妙なところですが、両者とも日本の伝統ですとか、地域の民謡とか取り上げていいなと思いました。それで、先ほどちょっと名古屋市教育振興基本計画のところを省略されたんですけれども、例えば、民謡のところを両者見ますと、残念ながら、愛知県は紹介されていますけれども、名古屋はないんですけれども、何か名古屋市とかかわりがあるページがあればご紹介いただければと思います。

(森勢指導主事)

名古屋市教育振興基本計画との関連については、確かに、「郷土に対する理解を深め、グローバル社会で通用する力を育む」ということで、両者とも伝統的音楽を取り上げています。ご指摘のとおり、残念ながら名古屋市の民謡というものが少ない関係で、ここには載っていません。両者ともありませんけれども、愛知ということになりますと、「教育出版」の1年、40ページ、見開きのページになりますけれども、「日本の民謡と芸能」で北設楽郡東栄町に伝わる「花祭り」が掲載されています。11月から1月にかけて行われて、20ほどの鬼が現れて、神楽を舞うというものになります。一方「教育芸術社」につきましては、1年、44ページの「日本の民謡」を見ていただきますと、「岡崎五万石」が掲載されています。これは知多湾から矢作川を上って岡崎城の下まで船が付くという歌詞のお座敷歌です。もう一つ、愛知の民謡としては、同じ「教育芸術社」の2・3上の50ページ、「受け継ごう 郷土の芸能」では、「津島天王祭」が取り上げられております。ご存知のように、日本の三大川祭りの一つであり、巻き藁船が宵祭りに出るということで有名な祭りになります。この記載のみになりますけれども、名古屋というところまでは残念ながらございません。

(服部委員長)

ありがとうございます。音楽一般につきましては、皆さんの意見をうかがっておまして、各学校における調査研究報告書のご意見、それから調査専門委員会のご意見等も鑑みまして、両方とも接近はしておりますけれども、ある意味で、限られた時間数の中で現場が教えやすいということで、「教育芸術社」を採択するというところでよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(服部委員長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。

次に、音楽器楽合奏についてお願いいたします。

(森勢指導主事)

器楽合奏の教科書は、音楽の学習のうち、器楽の内容を扱ったものとなっています。教科書は「教育出版」「教育芸術社」の2者から発行されており、全中学校と調査専門委員会で調査研究いたしました。

まずは、桃色のファイル、器楽合奏のページをご覧ください。全中学校の「教科用図書調査研究協議会」による研究結果について報告いたします。

観点「学習指導要領との関連」「内容の選択」「内容の程度」「内容の構成」「学習の仕方への支援」「印刷・造本等」については、「教育芸術社」に特筆すべき点があるとしています。また、「指導上の便宜等」については「教育出版」に特筆すべき点があるとしています。

続きまして、緑色のファイル、器楽合奏のページをご覧ください。調査専門委員会が、各発行者の観点別の特徴、さらにその内特筆すべきものを調査研究した結果についてご報告いたします。

観点3(1)「内容の選択」については、両者とも多くの紙面を割き、和楽器の基礎的な知識や奏法について丁寧に記載されています。「教育出版」の観点3(1)から29ページまでをご覧ください。和楽器の他の楽器として、リコーダーとギターを取り上げています。一方、「教育芸術社」の観点3(1)から49ページをご覧ください。こちらにはリコーダー、ギターのほかに、様々な打楽器が取り上げられております。

観点3(3)「内容の構成」については、両者とも、前半では基礎的な奏法や知識の定着、後半では合奏を通して表現の楽しさが味わえる構成となっています。また「教育芸術社」の観点3(3)「音楽学習MAP」をご覧ください。音楽一般でもありましたように、各教材で扱う「共通事項」を示すことで、学習内容が明確になっています。

観点5「印刷・造本等」については、「教育出版」の観点5をご覧ください。折り込みページが効果的に活用されており、あじろ綴じで堅牢な造本となっています。「教育芸術社」は、糸綴じの造本で、開きやすく使用しやすいと言えます。

その他、特に調査を要する事項1「和楽器の扱い」については、両社とも箏、三味線、篠笛、太鼓、尺八を扱っています。また、創作と関連付けて、和楽器の特徴やよさを感じ取ることのできる工夫がされています。「教育出版」の事項1をご覧ください。篠笛による「一番星みつけた」の対旋律をつくる活動が掲載されています。また、「教

育芸術社」の事項1をご覧ください。箏で「さくらさくら」の前奏をつくる活動が掲載されています。

次に、事項2「各楽器の基礎的な奏法の扱い」については、両社とも半分以上のページを使用し、詳細に扱っています。「教育出版」の事項2をご覧ください。アルトリコーダーとソプラノリコーダーが併記されています。小学校での学習を踏まえた指導ができるだけでなく、それらを使った合奏への広がりも期待できます。次に「教育芸術社」の事項2を順にご覧ください。32ページの「楽器の音色を聴いてみよう」というコラムがございます。各楽器への導入として、楽器の音色を聴いてみることを導入としています。また、36ページの下にあります「音を聴いて確かめよう」では、聴くことを大切にしながら基礎的な奏法が習得できるようになっております。

続きまして、事項3「教材の選択と編曲」については、両者とも耳慣れた名曲を数多く掲載しています。「教育出版」の事項3をご覧ください。「勸進帳」より「寄せの合方」の本格的な合奏が掲載されており、発展的な学習に取り組めるようになっております。また、「教育芸術社」の事項3をご覧ください。「打楽器のための小品」として、様々な楽器を組み合わせたり、身の回りの物で音を出したりして、音の重ね方や音色の面白さを味わうことのできる合奏が掲載されています。

最後に、教科書センターでの教科書展示会における市民の声は、器楽合奏については、なしということでご報告いたします。

以上、器楽合奏について、報告させていただきました。

(服部委員長)

ありがとうございます。それでは審議に入りますので、ご意見、ご質問等ございましたらお願いします。

(野田委員)

ここも2者しかありませんので、指導上の便宜のところ、さっきの音楽一般の方でも「教育出版」が学校の先生方は票が多かったんですけども、私も、写真のダイナミックさから言うと「教育出版」が見やすいなと思っておりますが、種別は音楽一般と器楽合奏は違うんですけども、当然ながら同じ会社で作っていますから、会社のなかでは関連させて作っていると思いますので、音楽一般の方が「教育芸術社」でしたので、こちらの器楽の方も「教育芸術社」でいいかなと、私は思っています。

(服部委員長)

ありがとうございます。他にはどうでしょうか。

(福谷委員)

質問なんですけれども、器楽の場合、子どもが演奏するときには、譜面か何かに立ててやる、例えば、どのような形で楽譜を見ながら演奏するのか、開き具合と関連してなんですけれども、教えてください。

(森勢指導主事)

多くの場合が、机の上に開くという形になります。音楽室の仕様によっては、譜面台を使う場合もあると思いますが、あと、合唱の場合は手で持つという形になります。それで、手で持つ分には両者とも違いは大きくないと思いますが、先ほど言いました綴じ方の違いによりまして、「教育芸術社」の方が、置いていただくと分かるんですけれども、その点では開きやすいという調査結果が、専門委員会の方から出ております。

(服部委員長)

他にはいかがでしょうか。やはり演奏するときの開きやすさというのもすごく関係はしてくると思いますしね。

ご意見があまりないようなんですけれど、今、ご説明を受けたところでは、「教育芸術社」の方が教科書を扱いやすいということもあるし、非常に内容がシンプルであるということ、それから、精選して教えやすいということもございまして、音楽一般との関係もありますので、よろしいでしょうか。まだ見ておられると思いますが。

(梶田委員)

私も関連があると思うので、一緒の会社の「教育芸術社」が良いと思います。

(服部委員長)

皆さんの意見も「教育芸術社」ということで採択させていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(服部委員長)

ご異議なしと認め、そのように扱わせていただきます。
次に、技術・家庭の技術分野についてお願いいたします。

(加藤厚指導主事)

技術・家庭科は、1年生、2年生でそれぞれ70単位時間、3年生で35単位時間設定されており、技術分野・家庭分野をそれぞれを2分の1ずつ学習することになっています。教科書

は、1年生で配本し、3年間使用いたします。技術・家庭科 技術分野の教科書は、「東京書籍」「教育図書」「開隆堂」の3者から発行されています。その全てにおいて、全中学校と調査専門委員会で調査研究をいたしました。

最初に、全中学校の調査研究協議会による研究結果について報告いたします。桃色のファイルの技術分野をご覧ください。

観点別に見ますと、全ての観点におきまして、「東京書籍」に特筆すべき点があります。

続きまして、調査専門委員会が、各発行者の観点別の特徴、さらにその内の特筆すべきものを調査研究した結果について報告いたします。緑色のファイルの技術分野をご覧ください。

観点1におきましては、特筆すべきものとして、「東京書籍」の方では、現学習指導要領の柱となっている技術の評価と活用について重点をおいて編集されています。4つの学習内容があるわけですが、全てにおきまして「技術の評価・活用」の章を設定し、それぞれの内容の最後にまとめとして位置づけております。次に「開隆堂」の観点1をご覧ください。左のページのように、技術を評価する観点を具体的に3つ示しております。右のページでは、ワークシートを例示しまして、授業に直結した内容になっております。

観点2におきましては、3者とも製造業に関わる人々や産業の発展と技術の関わりについて紹介し、望ましい職業観・勤労観に結びつくよう、また、生徒の働く意欲や将来に対する夢をふくらませるように編集されていますが、特筆すべき発行者はないとしています。

観点3(1)におきましては、特筆すべきものとして「東京書籍」の方の観点3(1)をご覧ください。「生活に活かそう」といったマークとコーナーを各所に設け、学習したことを日常生活に役立てるような内容になっております。次に「開隆堂」については、実生活に活用しやすい実習例を多数紹介しています。

観点3(2)におきましては、特筆すべきものとして、「東京書籍」の方は、発展的な内容として、LEDランプの発光の仕組みを取り入れ、白熱電球、蛍光灯と様々な角度から比較する事など、補充から発展への学習の流れが生徒に理解しやすいよう工夫されております。次に「教育図書」の観点3(2)をご覧ください。章末問題で記載内容のページ数を明記するなど、生徒が自らの学習を振り返りながら補充的な学習ができるように工夫されています。

次に、観点3(3)につきましては、特筆すべきものとして、「東京書籍」の方では、多くの実習例が用意されておりますので、弾力的な指導計画に対応できるようになっており、「学習のまとめ」や「発展」の分量も適量であります。次に「開隆堂」の観点3(3)をご覧ください。この「学習のまとめ」では、学習を振り返るとともに、生活に活かす観点を示しており、左のページのように、実際の数的なデータを紹介したりしまして、学習成果を実生活に活用できるような工夫がなされています。

観点4におきましては、3者とも凡例、資料には様々なマークを設けまして、利用しやす

いように配慮されています。特筆すべきものとしましては、「東京書籍」の方は、随所に「安全マーク」「衛生マーク」、また「小学校」や「他教科」といったマークが付けられており、安全面の注意喚起だけでなく、既習の内容や他教科との関連も意識できるように工夫がなされております。「東京書籍」の観点4をご覧ください。ここに「技術のてんびん」というマークがございますが、こういったマークを随所に設けて、話し合いの視点や、考えを深めることができるように工夫されております。「開隆堂」の方につきましては、「リンクマーク」を付けて、他の学習項目や家庭分野などの、内容が関連するページ数を示しております。

観点5におきましては、3者ともユニバーサルデザインフォントを使用しており、印刷も鮮明で文字のかすれや色のくすみもなく、3年間の使用に耐え得るような造本がされております。

その他、特に調査を要する事項である「技術と社会と環境とのかかわり」については、「東京書籍」の方は、設計の段階から再利用を前提としたものづくりを取り上げています。「教育図書」の方、事項1をご覧ください。食糧自給率というのを、「フード・マイレージ」、食料の輸送距離という独自の切り口で紹介し、社会と環境とのかかわりを取り上げております。

次に、「技術を適切に評価する能力」については、「東京書籍」の方の事項2をご覧ください。章末に「評価・活用してみよう」というコーナーを設けておりまして、ワークシートを活用して、技術のプラス面、マイナス面を比較、検討できるような特色があります。「教育図書」につきましては、地球温暖化を取り上げまして、技術、テクノロジーの光と影について考えられるようになっております。

次に「原子力発電の扱い」については、「東京書籍」の事項3をご覧ください。様々な発電のしくみの一つとして原子力発電を紹介し、福島第一原発の事故を取り上げ、炉心溶融や除染等の専門的な語句も使って、原子力の安心と安全について課題を挙げております。

次に「情報モラルの扱い」につきましては、「東京書籍」の方は「情報セキュリティ技術を知ろう」というページで、情報セキュリティに関するトラブルの例を分かりやすいイラストで紹介しています。情報モラルの必要性を実感として得られるような特徴があります。続きまして、「開隆堂」につきましては、事項4をご覧ください。ここには「情報モラルリンクマーク」というものがございまして、関連のページを示すことで実習を通して情報モラルを学習できる特徴があります。

最後に、教科書センターでの教科書展示会における市民の声について報告いたします。黄色いファイルの技術分野のページをご覧ください。技術分野につきましては、「製作の手順を紹介するのではなく、具体例を載せて視点の広がりを得られるものがよい」といった意見をいただきました。

以上、技術・家庭科、技術分野について、報告させていただきました。ご検討よろしくお願いたします。

(服部委員長)

ありがとうございました。それでは審議に入りたいと思います。ご意見、ご質問等お願いいたします。

(野田委員)

3者のうち、「東京書籍」だけAB版で2cmくらい大きいんですけども、この2cm大きい良さと言いますか、調査専門委員会の中でどんな意見が挙がっていますか。

(加藤厚指導主事)

AB版になったのは初めてと聞いておるんですが、特に技術分野は、ご承知のように、作業することが非常に多くありますので、例えば、作業しながら教科書を見る点におきますと、開いた状態で置くと閉じにくいというような特徴があるということ調査専門委員会の方から報告を受けておりますし、見開きのところで、ご覧いただくと分かりますように、やはり面積が広い分、写真とかが大きく取り上げることができるといった報告も調査専門委員会から出ております。

(小栗委員)

原子力の扱いのところで質問があるんですが、「東京書籍」「開隆堂」については、確か5つの掲載で、「教育図書」が12の発電方法の掲載というふうに思いましたんですが、実際にその違いが、教えるときのどのように教科書で差とか出てくるのかということをお教えいただきたいんですけども。

(加藤厚指導主事)

原発の場合につきまして、「東京書籍」の方は143ページ、先ほど見ていただいたと思いますが、写真を見ていただきますと、原子力発電の福島第一原発の事故の写真が載っておりますが、3者とも共通点のところは、エネルギーの変換に関わる技術の一つとして発電を紹介しておりますが、今度は「教育図書」の方の最後の巻末の資料になりますが、264ページを開いていただけますでしょうか。見ていただきますと、先ほど小栗委員のご指摘のように、写真が全部出ておりますが、12の発電の仕組みを、仕組みというよりも、どちらかという、発電方法の、技術的というよりも一般的な内容になっておりますが、「開隆堂」の方は、101ページを見ていただきますと、12ではなくて、上の表にあるような10の発電の効率について述べておりますし、発電のエネルギーの効率という点でいきますと、7つといった特徴があります。いずれも発電の仕組みそのものというよりも、そこにありますように、「コンバインドサイクル」といったような、最近のガスタービンと蒸気タービンを組み合わせたような、原子力発電の仕組みはなかなか難しいですので、こう

いった最近の環境に配慮した発電というのを図解で紹介しておるのが特徴だと思います。

(小栗委員)

「教育図書」の方には巻末はありますが、文中にはないというふうに思っておいたらいいでしょいか。ちょっと私が見落としているかもしれませんが。

(加藤厚指導主事)

「教育図書」の方は発電の仕組みそのものの中にはありません。先ほども言ったように、ガスタービンとかそういったものは載っておるんですけども、エネルギーのところを見ていただきますと、原子力発電のことは載っておりません。

(小栗委員)

そこはやはり大きな違いですね。

(服部委員長)

そうですね。原子力のことについて、載っているところと載っていないところと別れているということですね。その点について、調査専門委員の方でご意見ありますでしょうか。

(加藤厚指導主事)

原子力のことが載っているのは、申し訳ありません、「教育図書」の方、私載っていないと言ったんですが、見落としておまして、98ページをご覧くださいませでしょうか。原子力発電の仕組みが図で載っております。調査専門委員会の方からですが、発電の方法がたくさんある中の一つとして原子力発電が捉えられているのは、各発行者同じなんですけれども、「東京書籍」だけは、原発の写真まで載せて、先ほど申しましたような専門的な用語、炉心溶融とか除染だとか、そういった言葉を使って課題を提示しているのが特徴だというふうに報告を受けております。

(福谷委員)

最近の情報化社会の中で、特に中学生にとって、インターネットというのが以前よりも非常に近い存在になっていると考えております。その意味で、情報というものの利便性ととも危険性もきちんと認識したうえで、正しく使っていくという知識を学校教育の中で教育していくことが必要不可欠ではないかと常々考えているところですが、その観点で見たときに、「東京書籍」と「開隆堂」が非常にこの点を丁寧に書いているのではないかという印象を持ちました。具体的には、情報を安全に利用するためということで、例えば、「東京書籍」ですと210ページから、インターネットの特性、プラスの点、マイナスの点

というものを、図も示しながら例示していて、人権という意味、それから知的財産権という点でも注意喚起をしているところが、非常に良いのではないかと思いました。また「開隆堂」も同じように、危険性ととも安全に使うためにというところで、セキュリティのことを丁寧に説明しているという印象を受けました。

(服部委員長)

ありがとうございます。これからの中学生にとって、情報モラルというところはとても大事な問題かなというふうに思います。他にはよろしいでしょうか。

今までの皆さんのご意見と、調査専門委員、それから各学校の意見等をまとめまして、「東京書籍」を採択したいと思いますが、いかがでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(服部委員長)

ご異議なしと認め、技術分野につきましては、「東京書籍」とさせていただきます。続いて、家庭分野についてお願いいたします。

(中村指導主事)

家庭分野の教科書は、「東京書籍」「教育図書」「開隆堂」の3者から発行されています。その全てについて、全中学校と調査専門委員会にて調査研究をいたしました。

始めに、全中学校の「教科用図書調査研究協議会」による研究成果について報告いたします。お手元の桃色のファイル、家庭分野をご覧ください。

観点別に見ると、すべての観点について「東京書籍」に特筆すべき点があるとしています。

続きまして、調査専門委員会が各発行者の観点別特徴、さらにその内の特筆すべきものを調査研究した結果について報告いたします。緑色のファイル、調査専門委員会報告書、家庭分野のページをご覧ください。

報告書にありますように「学習指導要領との関連」においては、3者とも、実践的、体験的な活動を通して、生活をよりよくしようとする能力や実践的な態度が身に付くよう編集されています。

観点2「名古屋市教育振興基本計画との関連」においては、「東京書籍」の観点2をご覧ください。有松鳴海絞が紹介されています。着物の文化を伝え守るプロの話とともに紹介することで、日常生活の中で伝統文化に親しむことができるよう配慮されています。「開隆堂」観点2をご覧ください。特産品として「名古屋コーチン」が紹介され、地域の食材について、生徒が関心をもって学習できるように工夫されています。

観点3(1)「内容の選択」においては、「東京書籍」観点3(1)をご覧ください。右下にあるように「生活に活かそう」という項目が各所に設けてあります。ここには、その時間で学習したことを自分自身の生活で活かすための具体的な記述があり、日常生活の中で実践につなげられるよう配慮されています。

観点3(2)「内容の程度」においては、「開隆堂」の観点3(2)をご覧ください。家庭生活と人とのかかわり、食生活、住生活、消費生活に関連して「持続可能な社会をつくる」という資料を充実させ、環境、人権など現代の社会生活に対応する学習が展開できるようになっています。また、3者とも発達段階や興味、関心、生徒の個性に対応した写真やイラストを多く掲載しています。

観点4「表記・表現及び使用上の便宜等」では、「東京書籍」観点4の70ページをご覧ください。調理や製作の手順が、左から右へ順序よく並び、写真やイラストが適所に配置されていますので、一連の流れが分かりやすく、実習で基礎的、基本的な知識や技能を習得しやすくなっています。また、観点4の56、57ページをご覧ください。基礎技能や実習例をまとめて分かりやすく表示し、繰り返し学習ができるように工夫されています。「教育図書」観点4をご覧ください。独自のキャラクターが吹き出しで学習のきっかけとなるようなことを話しており、生徒の関心を引きつけて、課題に取り組めるよう工夫されています。

観点5「印刷・造本等」においては、「東京書籍」は、資料が多く掲載できる、横幅の広いA B版になっています。また、3者ともユニバーサルデザインへの配慮がなされていることが記載されております。

次に、家庭分野で特に調査を要する事項について、特筆すべき特徴を報告いたします。調査専門委員会報告書をご覧ください。

事項1「幼児の触れ合い体験の扱い」については、「東京書籍」事項1をご覧ください。施設への訪問について、事前の準備から体験後のまとめまでの流れが分かりやすく示されており、限られた時間で効果的な学習ができるよう工夫されています。そこから2ページめくっていただきまして、208ページ、209ページをご覧ください。実習ができない場合でも、豊富な写真を提示することにより、実際に関わるイメージを膨らませて学習できるよう工夫されています。また、体験後の振り返り学習を充実させ、学習が深められるようになっています。

事項3「消費生活の変化を踏まえた実践的な活動の扱い」については、「開隆堂」事項3をご覧ください。中学生の消費生活に関して、通信販売で想定されるトラブルについて、自分ならどうするかという視点で考えるべき事項を示し、解決への道筋を分かりやすく示しており、行動を促しています。また、消費者相談員の話とともに、トラブルの予防について考えられるようになっています。

事項4「防災の扱い」については、「東京書籍」事項4をご覧ください。巻頭に災害への備えをまとめて紹介し、食生活、衣生活、住生活の学習内容との関連をリンクさ

せて示しています。これにより、日常生活の中で防災意識を高められるように配慮されています。「開隆堂」事項4をご覧ください。このように、全編にわたり災害時の対応のみならず、日頃からの備えについての記載があります。また、巻末の「安全と防災」では、災害時に中学生としてどのように行動すべきかが具体的にまとめられ、実践しやすいものになっています。

最後に、教科書センターでの教科書展示会における市民の声につきましては、黄色のファイル、家庭分野のページをご覧ください。

「消費者市民の記載、具体例があるので、開隆堂が分かりやすい」といった意見が寄せられておりました。

以上、家庭分野について、報告させていただきました。ご検討よろしく願いいたします。

(服部委員長)

ありがとうございました。それでは審議に入りたいと思います。ご意見、ご質問等願いたいいたします。

家庭分野は、子どもたちが日常生活と、そしてこれから将来大人になっていくために必要な、いろいろな事項を取り扱っているなというふうに思いましたけれども、その点いかがでしょうか。

(野田委員)

名古屋市の振興計画の関連で、ここは3者とも名古屋のなごやめしが取り上げられているのでいいんですけども、もうちょっと高いところから、「夢に向かって将来を切り開くなごやっ子」の育成というキャリア教育の側面からみると、3者どういった扱いになっているのでしょうか。

(中村指導主事)

3者とも社会で活躍する人たちの仕事の内容ですとか、メッセージなどが適所に掲載されています。例えば、「東京書籍」では、121ページを見ていただきますと、「プロに聞く」というところで、クリーニング師として働くことの、働いてらっしゃる方の楽しさが伝えてあります。それから巻末の方の266ページでは、このように全編にわたって紹介されたプロの紹介をまとめまして、学んだことをさらに深め、生き生きと働いている人たちというふうに紹介をしまして、生徒が将来何ができるか、そんなことを考えられるように工夫されています。「教育図書」では、269ページの方に、「参考」という資料で、地域で環境に関わる仕事をしている人たちの声が紹介されています。学んだことと社会とのつながりが意識できるように工夫がなされています。「開隆堂」は、69ページ、ここに「参考」として、管理栄養士の立場から中学生へのメッセージを伝えている記載がございます。

「開隆堂」のこのような記載は各所にあります。これが、裏表紙の巻末のところに「未来に向かって」ということで、家庭分野に関連する職業の人たちを取り上げて、その職業を選んだ理由ややりがい等も紹介されて、生徒が、将来自分が選ぶ職業に関心を持てるようにする工夫がなされています。

(小栗委員)

先ほどの説明の中で、「東京書籍」の実習例の、見開きでお食事の料理の順番の、1番から6番が見開きで見えるというのは、非常に見やすくいいなど。それから、やはりAB版で、開いた時も見やすいですし、「東京書籍」が良いのではないかなというふうに感じました。1点質問は、「開隆堂」の中に、ユネスコの無形文化遺産としての和食が取り上げられているかと思いますが、「東京書籍」「教育図書」で同じような表現はありましたでしょうか。世界遺産として和食が登録されているということは。

(中村指導主事)

確か「東京書籍」の中には、ユネスコのそういったものが記載がございました。日常生活の中でそれを取り入れるというような記載がありました。41ページです。特徴としては、「東京書籍」の方では、献立作り、日常生活の中でこういった和食を取り上げることで、さらに日頃から一汁三菜の和食の良さなどを取り入れるようにというような特徴がございました。それから「開隆堂」の方は、先ほど委員からもご指摘があったように、郷土料理の後にこれがありまして、こういった伝統文化を継承するといった流れで編集がされているといったことが、調査専門委員会からの方で声が挙がっておりました。すいません、「教育図書」については、調査専門委員会の報告では挙がっておりませんでした。

(野田委員)

意見ですけれども、今、小栗委員が言われたように、家庭の方は、かなりAB版の効果が「東京書籍」は出ているなと思いますし、技術・家庭という教科の中で、それぞれ色合いだとか教科書の大きさとか、種別は違いますけれども、同じ方がきっと生徒も混乱がないと思いますので、家庭の方も「東京書籍」が良いと思います。

(服部委員長)

小栗委員、野田委員の方からも「東京書籍」でどうかというご意見をいただきました。教科書を見せていただいても、開き具合が非常にいいと、見ながらいろいろなことが学習できるという点もございますし、それから、専門委員の方からのご意見も「東京書籍」が特筆すべき点が多いという点もありますし、現場の方からもそのような意見もいただいておりますので、家庭分野につきましては、「東京書籍」を採択するというところでよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(服部委員長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。

それでは、続いて保健体育についてお願いいたします。

(山田康指導主事)

保健体育の教科書ですが、「東京書籍」「大日本図書」「大修館」「学研」の4者から発行されています。中学校の全学年で使用します。その全てについて全中学校と調査専門委員会で調査研究いたしました。

最初に、全中学校の「教科用図書調査研究協議会」による研究結果について報告いたします。お手元の桃色のファイル、保健体育のページをご覧ください。

どの観点も「大日本図書」に特筆すべき点があるとしています。

次に、調査専門委員会が、各発行者の観点別の特徴、さらにその内の特筆すべきものを調査研究した結果について報告をいたします。緑色のファイル、保健体育のページをご覧ください。

まず観点1「学習指導要領との関連」では、「大日本図書」「大修館」に特筆すべき点があるとしています。それでは、教科書「大日本図書」観点1をご覧ください。左上の「今日の学習課題」から右下の「学習を活かして」までの一連の流れによって、自己の学習課題をもとに必要な知識や技能を課題解決型学習によって習得し、自ずと生活に実践化できるようになっています。次に「大修館」観点1をご覧ください。左上、「Question」から始まる流れによって、自発的・自主的な学習の姿勢が身に付くようになっています。

次は、観点2「名古屋市教育振興基本計画との関連」では、「大日本図書」に特筆すべき点があるとしています。「大日本図書」観点2をご覧ください。身近な事例や分かりやすい資料を通して思考する「考えよう」を設定することで、思考力、判断力を高めることができるようになっています。

続きまして、観点3(1)「内容の選択」です。「東京書籍」「学研」に特筆すべき点があるとしています。特に「学研」観点3(1)、68ページから71ページのところをご覧ください。左上のところに、「もっと広げる深める」とあります。ここでは発展的な学習につながる内容が区別して配置され、身近な生活における課題を発見し、解決する資質や能力を培うことができる内容となっています。

続いて、観点3(2)「内容の程度」では、「大日本図書」「大修館」に特筆すべき点があるとしています。特に「大修館」観点3(2)をご覧ください。右側の上「コラム」

や右側中段の「事例」、こういったものが随所にあリまして、こういったものによって補充的な学習の充実が図られています。

続きまして、観点3(3)「内容の構成」です。「東京書籍」「大日本図書」に特筆すべき点があるとしています。特に「東京書籍」の観点3(3)、目次をご覧ください。保健編と体育編を合わせて、学年ごとに内容がまとめられています。学習内容が学年でつかみやすい構成になっています。

続いて、観点4「表記・表現及び使用上の便宜等」では、「東京書籍」「学研」に特筆すべき点があるとしています。まず「東京書籍」観点4、右下をご覧ください。学習のヒントやポイントがキャラクターを用いて示してあります。そして学習内容が深められるように工夫されています。続いて「学研」の観点4をご覧ください。本文は左側、関連する資料が右側にまとめられて、本文の内容が理解しやすく、資料は視覚的にとらえやすくなっています。

続いて観点5「印刷・造本等」では、4者ともユニバーサルデザイン、カラーユニバーサルデザインの観点から作成はされていますが、特筆すべき点はないと報告がされています。

続いて、保健体育科で特に調査を要する事項についての報告をいたします。資料では2枚目になります報告書をご覧ください。

事項1については、「知識を活用する学習活動の扱いへの対応」についてです。特に「大修館」事項1をご覧ください。87ページの右下「Try」というものや、91ページの「Challenge」への取組を通して、学習した知識を活用できるようになっています。

続いて、事項2「健康・安全に関する内容の実践的な理解」については、特に「大日本図書」事項2をご覧ください。そこにあります資料33ですが、見開きになっておりまして、実習を行う際にとっても流れが見やすく、実習しやすい構成になっています。そして実践的な理解を深めることができるように工夫されています。

続きまして、事項3「他教科や運動領域との関連」では、特に「東京書籍」の事項3をご覧ください。中段の右側に、緑色のマークで「他教科」というマークがあるかと思ひます。そこにありますように、関連について示されていますので、他教科や関連を意識しながら学習できるように工夫されています。

続きまして、事項の4「今日的な健康問題の扱い」では、特に「大日本図書」の事項4をご覧ください。そこでは医薬品の有効利用のところですが、「トピックス」の中でサプリメントやトクホについても、今日的な課題として取り上げ、健康な生活についての学習を深めることができるようになっています。

最後に、教科書展示会における市民の声についてご報告いたします。保健体育については、黄色のファイルの「保健体育」のページです。「危険ドラッグやSNSなど、最新の情報が多く載っているのひ、大日本図書のものがいいと思ひ」「学研は、偉人が登場する場面が多く面白い。大日本図書は、表紙が今までになく新鮮だった」といっ

た意見が寄せられておりました。

以上、保健体育について、報告させていただきました。ご審議よろしく願いいたします。

(服部委員長)

ありがとうございます。それでは保健体育の審議に入りたいと思います。ご意見、ご質問等お願いいたします。

(梶田委員)

教科書についてまんべんなく良さをご説明いただいたんですが、専門委員の報告では圧倒的に「大日本図書」なんですが、その良さというのはどういった事が話されたんでしょうか。

(山田康指導主事)

調査専門委員会のところでは、圧倒的に良さというところで見られるのは、例えば、細かな配慮ということが出ました。「大日本図書」をご覧いただきますと、「大日本図書」のみ見開きのインデックスが左右にあります。そこに、色と章が付いています。また、章の中の資料には、通し番号が付けられておりますので、実際に指導者が授業するときに、資料の何々という言い方で、図や表や絵、写真といった言い方をしなくても、指導できるのは使いやすいねという意見も出ましたが、他にも教科書はいろいろ工夫がありますので、特筆すべきものとしてはありませんが、実際の授業場面では、そういったものがとても教師にとってはありがたいなといった意見が、調査専門委員会では聞かれました。

(小栗委員)

先ほどのご説明の中の、素晴らしいなと思ったんですけれども、「東京書籍」が学年別にページが分かれているという発想がありまして、とてもいいんじゃないかなというふうに思いましたが、バランスとして、「大日本図書」と比較してサイズも同じですので、比較したときに、例えば「東京書籍」でいきますと、学年でページで分かれている、同じように1年、2年、3年で「大日本図書」を使用されるときには、どういうふうに教えていかれるのかなという質問です。

(山田康指導主事)

教科書の構成上、学年ごとにまとめられているものと、体育編、保健編と分野でまとめられているものがあるんですが、実は学習指導要領上は、体育の部分については、体育の知識ということで、学年3時間以上という配当になります。保健は、3学年あわせて48時間配当する指導要領上の説明がありますので、各学校の方で工夫していく際に、保健分野に

については、各学年で48時間の3分の1、16時間という目安で指導していくことになります。そうなったときには、保健分野の方が続いていた方が実際の指導場面では指導しやすいという声を専門委員会の方では聞いています。工夫としては、学年ごとでまとめられているのは斬新な発想なのですが、学習というところでは、実際は、保健分野で学習していくところが、実際の学校では合っているというふうに専門委員会の方では出ました。

(野田委員)

今の件で確認ですけれども、そうすると、学習指導要領上では、保健の方は1年2年3年という区別はないということに理解していいですか。

(山田康指導主事)

教えるべき内容はきちんと分けています。内容の1は1年、内容の2が2年、内容の3は3年というふうに、内容は分けております。教えるべき時期は指定があります。

(福谷委員)

ご説明にもありましたように、「大日本図書」の102ページの「心肺蘇生」のところは、非常に分かりやすくいいなと思いました。実際の中学生が実技というか、こういうものをやるのかどうかは分かりませんが、開いて戻ることもないですし、これを一覧で見ながら実際のものを試していけるというのは非常にいいなというふうに思いました。同じような観点で、148ページに「熱中症への対応と予防」というものがありまして、熱中症かと思ったときに、意識障害があるかどうか、水分摂取ができるかどうか、その状況に応じて、あり、なしという形でどういう対応をすればいいかということを見ていける、一覧で見れるというのも非常に分かりやすいなと思いました。それから、先ほどご説明にもありましたし、市民の方のご意見にもありますが、左から見ても右から見てもインデックスが探せるというのもこの発行者の特徴であり、中学生にも非常に使い勝手が良いのではないかと思いますので、私としては「大日本図書」がよいのではないかと考えます。

(服部委員長)

ありがとうございます。他はよろしいでしょうか。現場では割に使いやすいということで、本がきちっと開いていて見やすいという点とか、図表とか挿絵等非常に分かりやすいと皆さんこの本を見られて感じておられるということと、委員会の報告、そして学校の報告等を見まして、「大日本図書」を採択させていただいてよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(服部委員長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。

(中村指導主事)

先ほど小栗委員より質問がありました、和食のユネスコ無形文化遺産の登録につきましては、「教育図書」の方にも参考として134ページに記載されておりましたので、訂正をさせていただきます。申し訳ございませんでした。

(服部委員長)

3者とも記載があるということですね。

(中村指導主事)

コラムとして記載がされております。

(服部委員長)

ありがとうございました。

これで、本日予定の案件は全て終了いたしました。

残りの種目につきましては、7月29日に予定の臨時会において採択を行いたいと思えます。なお、冒頭にも述べましたが、本日の議事に関しましては、県の指導により、採択結果は8月31日まで非公開となっております。また、会議録、資料等につきましても同様の取り扱いとなりますので、その旨ご理解の上、本日知りえた内容につきましては、ご配慮くださいますようお願いいたします。

以上で、教育委員会臨時会を終了いたします。

午後4時38分終了